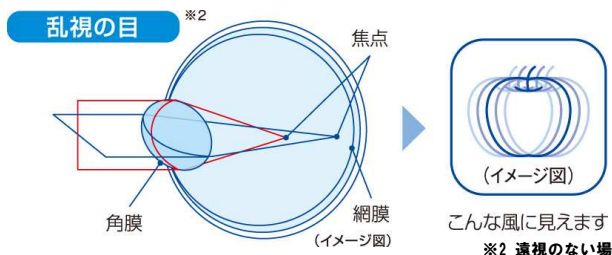
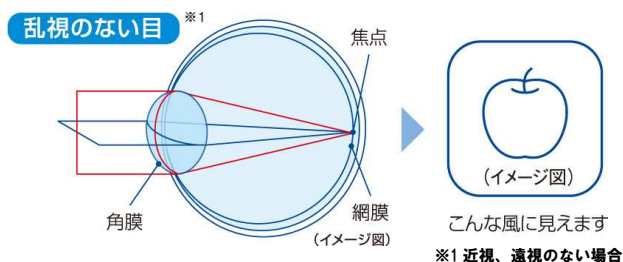


<参考資料>

1. 乱視の仕組みと乱視矯正のポイント

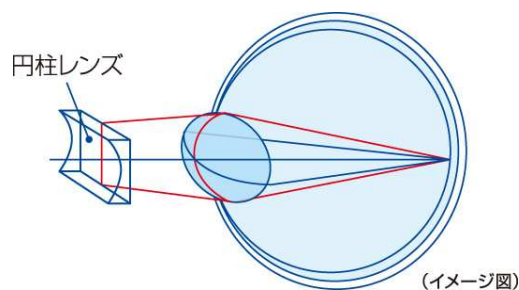
目には角膜と呼ばれる「レンズ」があります。乱視のない目の角膜はほぼ球形で、直進してくる光を曲げて網膜と呼ばれるスクリーン上の一点に集めることで、鮮明な像を映し出しています。

しかし、乱視の角膜は形がラグビーボールのように歪んでいるため、光を一点に集めることができません。このため一点に焦点が合わずブレて見えるのです。



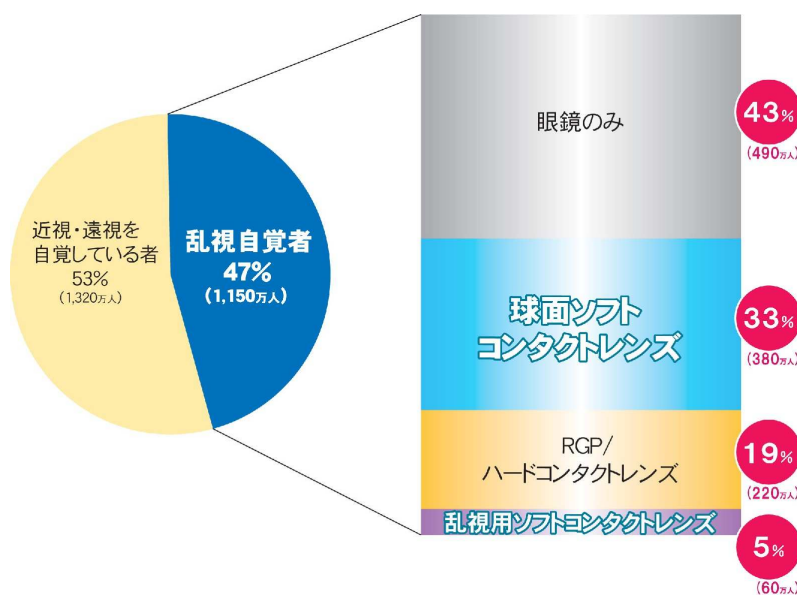
乱視矯正に大切な3つのポイント

- ① 一方向の光だけを屈折させる。「円柱レンズ」を使って焦点を合わせる。
- ② 円柱レンズをその人の乱視の方向にきちんと合わせる。
- ③ コンタクトレンズの場合、円柱レンズの軸がズレると見えにくくなるので、目の上でレンズが回転しないようにする。



2. 乱視自覚者と視力矯正方法について

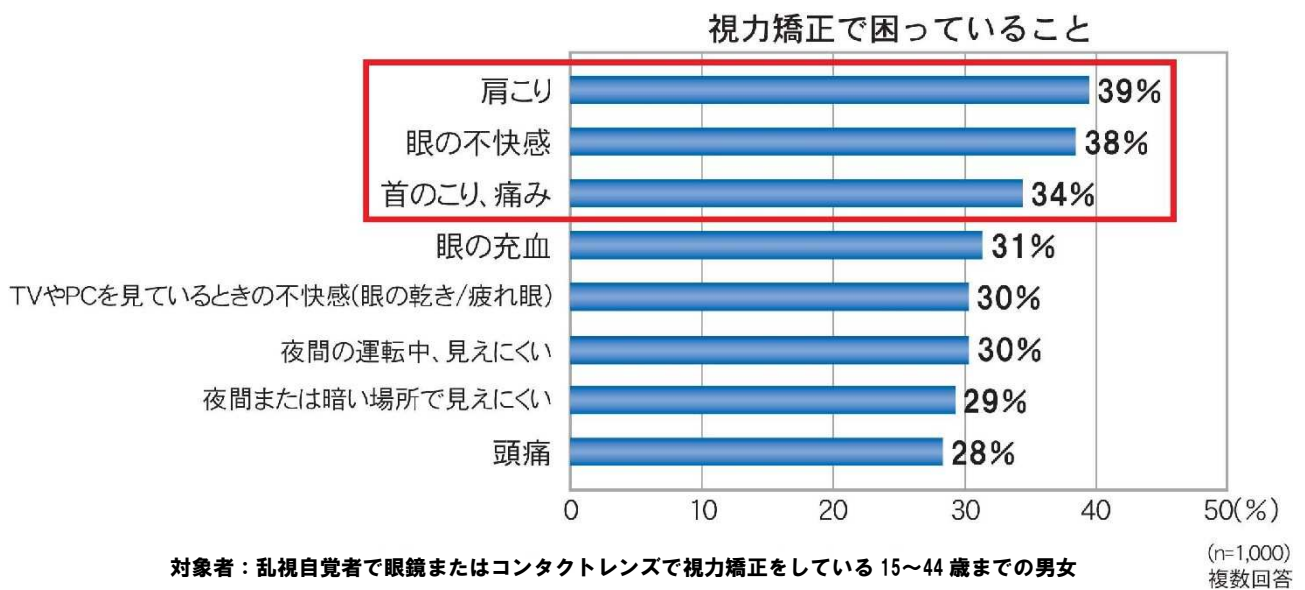
現在、何らかの方法で視力矯正をしている2,470万人のうち「乱視がある」と自覚している人は、その半数近くを占めます。しかし、乱視用ソフトコンタクトレンズの使用者は乱視自覚者の5%にすぎません。(対象：12～39歳の男女)



出典：2006年 J&J 調べ

3. 乱視自覚者が視力矯正をしていることで困っていること

視力矯正をしていることで困っていることとして、肩こりや目の不快感を挙げています。



出典：2007年 J&J 調べ